

実態	学力状況	学習・指導の状況	体力の状況		いじめ・不登校の状況									
	・R4学力調査 （1年4月市学力状況調査 全国平均以上 / 科目） （2年4月県学力状況調査 県平均以上 / 科目） （3年4月全国学力・学習状況調査 全国平均以上 / 科目） ・定期テスト 知・技能問題正答率40%以下(1学期末) % 思判表問題正答率40%以下(1学期末) %	・「授業中自分の考えを交流したり、発表したりする場面があるか」の肯定的回答が % ・「授業中に自分の言葉でまとめや振り返りを行う場面があるか」の肯定的回答が % ・「振り返りから『わかった』と感じたり、『次はこうしよう』と考えたりできているか」の肯定的回答が %	運動愛好度	R3全国値以上種目数			いじめ	R2	R3	R4				
			2年	平均 %	男子	/24					認知件数			
3年			平均 %	女子	/24						解消率%			
		・「1日どれくらい運動するか」のアンケートで、30分以下の生徒割合が % ・令和3年度大分県児童生徒の体力・運動能力等調査結果において県平均を上回った項目数、男子 /24、女子 /24		不登校		不登校数				《自校の課題》 ・いじめの内容は、 ・不登校生については、				

学校の教育目標	重点目標	達成指標			重点的取組		取組指標		取組評価	達成状況の確認		考察・改善
		知（研主任）	徳（生指主）	体（体主任）	学力向上・体力向上・児童生徒支援対策		誰が・何を・どれくらいの頻度で			根拠	評価	
育成を目指す資質・能力 自ら学び、主体的に行動する力 郷土を愛し、深く学び 響き 輝く	知識及び技能の習得	定期テストでの知識・技能の問題において、各教科正答率40%以下の生徒を20%以内。 12月の杵築市学力調査で基礎の正答率が、全ての教科で全国平均以上。	「『心の響き合う』あいさつで自ら進んであいさつする」 「周囲の人から気持ちよいあいさつを返して貰っている」の肯定的回答が80%以上。	生徒アンケートで「自分は進んで体力向上ができるよう『●中トレーニング』に取り組んでいる」の肯定的回答が70%以上。	自己調整力を身につけて主体的に学ぶ生徒の育成 ○見通しをもって学習に取り組み、成果や改善点を次につなげることができる手立ての工夫 ○生徒会と連携した『心の響き合う』あいさつ運動などの充実 ○専門スタッフとしてのSC・SSWとの協働の強化 一校一実践 ●中フィジカル・メンタルステップアップ ○●中ストレッチを朝の会で毎日行う。 ○部活動や体育で、●中トレーニングを行う。		○授業者が、生徒に学習の見通しをもたせ意欲を高める「めあて」を設定する。（毎時間） ○授業者が、学びの成果や改善点を次につなげる「振り返り」を設定する。（内容のまとめりごと） ○生徒会担当を中心とした教職員で、毎週月曜日に生徒会役員と学級委員によるあいさつ運動を計画実施させ、月1回の全校集会の中で検証・改善を行わせる。 ○SCの生徒指導推進委員会への参加と担任を中心とした教育相談活動および家庭訪問を随時行う。					
	思考力、判断力、表現力等の育成	定期テストでの思判表の問題において、各教科正答率40%以下の生徒を25%以内。 12月の杵築市学力調査で活用の正答率が、全ての教科で全国平均以上。 県中3学テにおいて、県平均以上が3年生の50%以上。	外部講師による授業や学校行事等で、課題を自分のものと捉え、これからの生活での積極的取組を記述した生徒の割合が70%以上。	生徒アンケートで「進んで健康の保持増進に取り組んでいる」の肯定的回答が85%以上。	自己調整力を身につけて主体的に学ぶ生徒の育成 ○生徒指導の三機能を活用し、主体的・対話的で深い学びを創造する学習展開の工夫 ○健康の保持増進(虫歯予防・手洗い・換気等・TV、ゲームの時間)を通して生徒に自他の心身の健康について考えさせる取組の実施		○授業者が対話と交流を通して自分の考えを深化・拡充する場面を設定する。（内容のまとめりごと） ○授業者が生徒指導の三機能のステッカーを提示することにより、生徒の主体的な学びを促す。（毎時間） ○生徒会の委員会担当が、生徒会や学年生徒会で、生徒による学校での新しい生活様式(手洗い・換気等)の呼びかけを短学活や昼休みの放送などで実施させる。					
	学びに向かう力、人間性等の涵養	生徒アンケートで「学習目標を達成できた」の肯定的回答75%以上。	生徒アンケートで「自分の長所や短所を的確に自己理解できている」の肯定的回答が70%以上。	生徒会が意欲的に取り組める内容を考え「『●中ストレッチ』を効果的になるよう工夫して取り組む事ができた」の肯定的回答が80%以上。	授業改善以外の学力向上の取組 ○各学年の実態に応じた学力向上に向けた学習目標・生活目標の設定と検証・改善 人間関係プログラムの実施（学級・学年） ○月1回のプログラムを学級で実施する。 ○各学年『心のステップアップ教室』の開催と、『空・雨・傘（SRU活動）』の学級・学年・全校での実施		○学年部の教師が、学年毎に生徒会の「授業の心構え」に沿った、より具体的な学習目標・生活目標を設定させ、月1回の検証・改善を行わせる。 ○教職員が、生徒会活動として全ての生徒のSRU活動での日常生活の振り返りを毎月行わせ、廊下に掲示させる。 ○学期ごとに実施する教育相談等によって、生徒の自己理解の状況や人間関係を教職員が把握する。					

**学校評価の4点セット
 特色ある事例③**

担当	重点的取組	評価	考察・改善
家庭	「家庭学習のすすめ」を活用し、SNSやゲーム等の適切な利用を含めて、家庭での指導の充実を図る。		
地域 (学校運営協議会)	研修広報		地域人材等活用計画に沿った外部専門講師による授業、及び交流を、年間を通して行う。学校運営協議会委員メンバーが参加した、3年生の高校入試・就職試験等の面接指導を行う。
	生活環境		生徒との交流を意識した学習環境整備を行う。

重点目標	重点的取組	取組指標	評価	考察・改善
「チーム●●中」が健康で丸となる	・ノー残業デーの徹底 ・情報の共有による仕事の効率化	・毎週水曜日は17:30閉庁 ・ミライムによる「報連相」と、直接会話(各種委員会・部会)による情報共有の日常化・見通しをもった運営		

※ 取組状況評価 (S:100%越 A:80~100% B:80%未満)

※ 達成状況評価 (SS→S SA→A AA→A SB→A AB→B BB→B)